



幼稚園の先生から学びました

5月16日(水)の5・6時間目に、保育科2年生・3年生を対象とした外部講師の先生による授業が行われました。講師として、保育実習や夏休みの保育ボランティアでお世話になっている鴻巣幼稚園の渡辺絵梨香先生をお迎えし、「保育者を志す上で必要なこと」というテーマで講演をしていただきました。鴻巣幼稚園の紹介、1日の流れやその中で先生として心がけていることなどを丁寧に教えて頂き、生徒たちは集中して取り組みました。また、絵本の読み聞かせの実演、手遊び、新聞紙を使った遊びなどを交えていただいたので、生徒にも大変わかりやすく、すぐに実践したいと思えることばかりでした。先生のお話から、笑顔や身だしなみ、言葉遣い、先生から声をかけることの重要性を認識することができました。



絵本の読み聞かせ



手遊び



生徒も一緒に手遊び



新聞紙を使った遊び

<3年生の感想>

- 子どもたちはとても素直で純粋なので保育者の一言で表情ややる気が変わるといってお話を聞いて、保育者は子どもたちにとってとても大きな存在なのだということを強く思いました。今日学んだことを実行できるようにしたいと思います。
- 昨年の夏に保育ボランティアをさせていただいたときに、降園前に担任の先生と園児一人ひとりが「バイバイさようなら」と言ってハグをしていました。それは、けがをしなかったかどうか、具合が悪いところはないかなどを見ているということを知りました。そして、先生方が笑顔で子どもと接することによって、子どもが安心して降園できるのだということもわかりました。謙虚な気持ちで、挨拶を大切に、実習に臨みたいと強く思いました。
- 今日、幼稚園の先生のお話を聞いて、これから実習をさせていただく上で、また保育者を志す上でも必要なことをたくさん知ることができました。先生の言葉遣いは、とても丁寧に私もしっかりとした言葉遣いを心がけなくてはいけないと思いました。
- 先生は、私たちに遊びを教える時、手遊びをしながら並行して手遊びの仕方を説明して下さるのを見て、私の次の目標はこれだと思いました。子どものケンカをおさめることが前回のボランティアの時にできなかったので、実習ではできるように頑張りたいです。
- 自分が働くようになったら、いくつになっても思い出してもらえる大好きな先生として記憶に残りたいと思いました。
- 先生の一つひとつの行動に意味のないことはないのだと感じました。
- 先生は「命を預かる仕事」なので、そのことを頭に入れてこれからの実習に生かしたいです。

<2年生の感想>

- 今まで、保育者は折り紙や歌、ピアノ、絵の技術が一番大事だと思っていました。今日の先生のお話を聞いて、それだけではよい保育者になれないとわかりました。信頼される保育者になりたいです。
- 今日、愛情をもって接すること、毎日の子どもたちの顔を見たり小さなサインが子どもにとってのSOSだったりすること、一瞬一瞬がとても大切であることを知りました。
- 私たちも保育実習まであと1年。普段の学習をもっと大切に取り組み、何倍も立派な姿で子どもたちと関わっていければいいと思いました。
- 先生の明るい表情と声の大きさがすごかったです。笑顔を絶やさず、そして後ろまで届くハキハキとした大きな声で話がとても聞きやすかったです。元気な子どもたちがたくさんいて動き回っている中で、みんなの視線を集めたり指示をだしたりするには大きな声が必要だと思いました。

貴重な学びとなりました。今後に活かしましょう。